



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

## 知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 3249 号 2016.9.10 発行

パラリンピック閉会式の東京引き継ぎ、出演者を事前公表

朝日新聞 2016年9月10日  
GIMICOさん



2020年東京五輪・パラリンピック組織委員会は9日、開催中のパラリンピックの閉

ラジル・リオデジャネイロで

会式（現地時間18日）で行われる東京への引き継ぎセレモニーのコンセプトを「POSITIVE SWITCH」と発表した。障害をきっかけに独自の世界観を確立したモデルやダンサーらのパフォーマンスで、東京の魅力を世界に発信するという。

企画演出は、音楽監督の椎名林檎さんら五輪閉会式と同じチームが手がける。事前にコンセプトや出演者を公表するのは異例だが、クリエイティブ・スーパーバイザーの佐々木宏氏は「閉会式となると関心が薄れる部分もある。少しでも多くの方に関心をもって見て頂ければ」と説明した。

主な出演者は中学生の時に右足を切断し、今は義足のモデルとして活躍するGIMICO（ギミコ）さん、20代前半で左足を失ったダンサーの大前光市さん、暗闇を体感するワークショップで活動する視覚障害者の檜山晃さんの3人。スタジアムの特設ステージで、東京の近未来を示した映像や音楽とともに8分間のパフォーマンスを披露するという。

コンセプトについて佐々木氏は「一つの障害がむしろ、新しい人生のポジティブな変革のきっかけになる。そんなテーマを、東京大会は打ち出していきたい」と話した。

北斗星（9月10日付）

秋田魁新報 2016年9月10日

昨日は、かなり早起きしてリオ・パラリンピック男子車いすバスケットボールの日本—トルコ戦をテレビで見た。世界レベルの試合とは、これほどすごいものだったのか。想像していた以上に面白かった▼ゴール下でのポジション争いや目まぐるしいパス回し、攻守の切り替えの速さなど、バスケットの醍醐味（だいごみ）が味わえる。加えて車いす操作

の巧みさ。倒された選手が体をクルッと回して車いすごとと元通りになる。見事なものだ▼日本代表メンバーで美郷町千屋出身の藤井新悟選手（38）を応援しようと、同町公民館にはテレビ中継が始まる午前3時半に町民ら約50人が集まり、大スクリーンで観戦した。取材した同僚は「この小さな町であの時間ですから、大した人数です」▼藤井選手は中学高校とバスケットに打ち込んだが、19歳の時にスキーで転倒して脊髄を損傷し、以来、車いす生活を続けている。パラリンピックはアテネ大会から4大会連続出場で、前回（ロンドン）、前々回（北京）は日本代表チームの主将を務めた▼北京大会後に小紙に語った言葉が印象的だ。「車いす生活になりたてのころは、障害者である自分が嫌で仕方がなかった。そんな自分に『日本代表』のような誇れるものが欲しくて練習に打ち込んだ」「障害者にならないければ、夢を語れる人間にはなれなかった」▼このように語れる人生も見事ではないか。リオ大会を集大成にするという藤井選手をテレビ画面を見ながら後押ししたい。

### 認知症の女性が徘徊中死亡、施設に賠償命令 読売新聞 2016年09月10日

認知症の女性（当時76歳）がデイサービス施設を抜け出し、徘徊中に死亡したのは、施設側が注視義務などを怠ったためだとして、女性の遺族が施設を運営する社会福祉法人新宮偕同園（福岡県新宮町）を相手取り、約2960万円の損害賠償を求めた訴訟の判決が9日、福岡地裁であった。

平田直人裁判長は「女性の動静を見守る注視義務を怠った」として、同法人に約2870万円の支払いを命じた。

判決によると、女性は2014年1月、通所中の施設を抜け出し、3日後に施設外の畑で凍死しているのが見つかった。女性はアルツハイマー型認知症と診断されていた。

平田裁判長は「女性には徘徊癖があり、施設側は警戒すべきだった。すぐに警察に通報するなど最善の対応も取らなかった」などと指摘。「女性が抜け出すことは予見できなかった」とした施設側の主張を退けた。

### 障害者の働く場視察 英アルツハイマー病協会専務理事 神戸新聞 2016年9月9日



障害者らが配食サービスを行う事業所を視察するヒューズ氏（左端）＝たつの市龍野町富永

神戸・ポートアイランドで11、12日に開催されるG7神戸保健大臣会合を前に、英国アルツハイマー病協会のジェレミー・ヒューズ専務理事（58）が9日、障害者に対する地域ケアの実態を視察するため、兵庫県たつの市のNPO法人「いねいぶる」の事業所を訪れた。

同NPOは障害者の就労・生活支援に取り組む。ヒューズ氏は、同市龍野町で弁当の配食サービスを行う就労支援事業所など、5カ所の活動拠点に足を

運んだ。

精神障害者や若年性認知症者らが、JR姫新線本竜野駅舎を清掃したり、コミュニティーカフェで働いたりしている様子を見学。「どうやって仕事を探したか」「他地域でも同様の業務があるのか」と矢継ぎ早に質問した。

宮崎宏興（ひろおき）理事長（43）は「利用者同士がどんな仕事が必要か、話し合いから始める」と説明。自主性を重んじ、スタッフがサポートに徹することで利用者の仕事への姿勢が変わった—など経験談を交えて答えた。

同会合で世界保健機関（WHO）事務局長らと意見交換するというヒューズ氏。「障害者自身で何をしたいかを決め、それが達成可能であることが分かった。他の自治体でも優良

事例を展開できないか提案したい」と話した。(松本茂祥)

### 16歳飯山さんに大賞＝障害者のサッカーアート

時事通信 2016年9月9日

障害者の芸術活動を支援している障がい者自立推進機構(代表理事・野田聖子衆院議員)が主催し、日本プロサッカー選手会とJリーグが協力した絵画コンテスト「パラリンアート・サッカーコンテスト」の表彰式が9日、東京都渋谷区で行われ、グランプリに栃木県立益子特別支援学校高校1年の飯山太陽さん(16)の「未来のサッカースタジアム」が選ばれた。応募総数1862点の中から選ばれ、飯山さんは「とてもうれしいです。思い付いたままを絵にしました」と笑顔で話した。審査員を務めた元サッカー日本代表の北沢豪さんは「選ぶのは大変だったが、素晴らしいものに出会えた」とたたえた。各賞に選ばれた71作品は渋谷区の渋谷ヒカリエで10日まで公開される。

### 68歳「シャイニー」鮮やか予選突破

卓球・別所キミエ 朝日新聞 2016年9月10日

卓球女子シングルス(車いす)予選で香港の選手と対戦する別所キミエ＝9日、ブラジル・リオデジャネイロのリオ中央体育館、金川雄策撮影



68歳。日本代表最年長選手が、卓球女子シングルス(車いす)の予選を突破した。別所キミエ(兵庫県障害者スポーツ交流館)は「次もやるしかない。ひたすら打ち返します」。2008年北京大会から、これで3大会連続での準々決勝進出だ。

愛称は、輝きを意味する「シャイニー」。「化粧は、目力やから。アイラインをしっかりと描いてきた」。

その言葉通り、9日の予選リーグでは鋭い眼光で、会場でひととき目立った。頭にはピンクや青のチョウの髪飾りが38個。爪には、ブラジルと日本の国旗をデザインしたネイルが光った。

予選は3人1組で戦い、上位2人が準々決勝に進む。初戦は、ロンドン大会の金メダリストで、世界ランキング1位の中国選手。素早い球足に対応しきれず、ストレート負け。8時間後の香港選手との試合では、左右に振って相手のミスを誘って快勝した。

兵庫県明石市出身。骨盤にがんが見つかり、44歳のときに車いす生活に。リハビリで始めたのが卓球だった。04年、56歳でアテネ大会に初出場。障害者のイメージを変え、選手としていつまでも輝きたいと、身なりにこだわってきた。

北京大会も前回のロンドン大会も、5位。「いつも5位から上がってないんでね、もうちょっと上にあがりたいたい。というか表彰台にあがりたいたい。ほっとしている場合やない」。引き締まった表情で会場を後にした。(坂本進、斉藤寛子)

### 社会福祉優良従事者に10人 山陽新聞社会事業団が14日表彰

山陽新聞 2016年9月9日

山陽新聞社会事業団(松田正己理事長)は、本年度(第42回)の社会福祉優良従事者10人を決めた。岡山県内の社会福祉関係職場の第一線で職務に励み、大きな成果を上げている人たちで、県と県社会福祉協議会の後援により、毎年表彰している。表彰式は14日、岡山市北区柳町の山陽新聞社で行われる。受賞者は次の皆さん。

#### 福田サツキさん 旭川荘愛育寮副寮長

1975年、重症心身障害児施設を希望する人が少なかった時代に旭川児童院に保母助手として就職。以来41年間、常に第一線で利用者中心かつ人権に配慮した支援を実践し続ける。寮の大規模改修では「バリアフリー・行動制限廃止」を目標に生活棟の施設をな

くすなど環境見直しの中心メンバーとして手腕を發揮した。岡山市。

**神崎珠代さん** 特別養護老人ホーム・大ヶ池荘主任管理栄養士

1983年、備前市の大ヶ池荘に就職。同僚の調理員や他部署とのコミュニケーションを欠かさず、職場の中心となり業務改善に努める。管理栄養士として高齢者の身体の状況や健康に配慮しながら栄養バランスの整った食べやすい食事作りのため日々工夫を重ね、利用者からは「おいしい」と大変喜ばれている。岡山市。

**守安和子さん** 特別養護老人ホーム・憩いの丘介護副主任

1992年、憩いの丘に就職。献身的に介護に携わる姿と真面目な人柄で利用者だけでなく、その家族からも厚い信頼を得ている。施設で取り組む「科学的介護」に積極的に関わり、自立支援に向け努力している。地域交流の促進にも熱心で地元婦人会との「栄西踊り」保存に参加してイベントで披露した経験もある。岡山市。

**村上潤子さん** 救護施設・浦安荘支援員

1992年、浦安荘に就職。利用者の保健相談に丁寧に応じ、精神障害者の社会参加を後押ししてきた。施設改修にあたり全室個室化を進めるなど生活の質向上に貢献。支援課長として現場をまとめ、職員の指導役として豊富な経験を伝えた。対外的には矯正施設退所者の支援プログラム検討会アドバイザーも務めた。岡山市。

**長原典子さん** 総社市社会福祉協議会サービス提供責任者

1994年、総社市社会福祉協議会に就職。訪問介護員および介護支援専門員としてキャリアを重ね、高齢者や障害者の自宅での生活を積極的に支援してきた。在宅福祉系の係長として常勤職員16人、登録ヘルパー34人による年間延べ5千件の支援を統括。後任の育成にも熱心で福祉増進に活躍した功績は大きい。総社市。

**高下眞由美さん** 高梁市社会福祉協議会居宅介護支援事業所かわかみ介護支援専門員

1995年から備中町社会福祉協議会に勤務。以来21年以上にわたりホームヘルパー、デイサービスセンター介護員、介護支援専門員として福祉業務に携わる。より質の高い福祉活動を展開するため、現場主任として誠実に関連機関との調整を重ね地域住民とのパイプ役になっており、他の職員の模範となっている。高梁市。

**高橋孝子さん** 岡山済生会ライフケアセンター看護職員

病院、老人保健施設勤務を経て、岡山済生会ライフケアセンターに1998年の開設当初から勤務。同センター内の介護老人保健施設、特別養護老人ホーム、ケアハウスの看護職員としてそれぞれの施設の特徴に合わせたケア、機能訓練を行う。特にケアハウスでは8年間看護師として1人で夜間、休日の緊急時にも対応している。岡山市。

**神原公子さん** 津山市社会福祉協議会介護福祉士

金融機関勤務などを経て2000年に津山市社会福祉協議会に勤務。その後介護福祉士の資格を取り正職員となった。高齢者・障害者を支援する4人のサービス提供責任者の中心として活躍する。介護支援専門員らとの連絡調整、利用者からの要望の窓口も務めており、真面目で誠実な対応は周囲から高く評価されている。津山市。

**薦田典子さん** 浮洲園居宅介護支援事業所介護支援専門員

病院勤務を経て2001年から倉敷市内の複数の福祉施設で業務に精励してきた。仕事熱心で向上心が強く、看護師をはじめ養護教諭1級、保健師免許、介護支援専門員の資格を持っている。豊富な知識を生かして高齢者の在宅介護部門を中心に手腕を發揮しており、社会福祉の充実発展に尽力してきた功績は大きい。倉敷市。

**福原 加代子さん** ケアハウス高瀬介護支援専門員

農協勤務などを経て2001年、社会福祉法人恵神会に就職。09年にグループホームを新規開設するにあたり、介護業務全般のシステム構築に寄与した。外部からの傾聴ボランティアや慰問の受け入れに力を入れる。粘土細工・絵手紙・生け花など多くの趣味を業務に生かし、施設に飾る季節の花々は利用者の心を和ませている。真庭市。

## 子ども引きつける保育を 発達障害児の支援考える 佐賀新聞 2016年09月10日

保育者の専門性について「受容的な関わりと指導ができること」と説いた石井正子准教授＝佐賀市の佐賀大学本庄キャンパス



### ■昭和女子大 石井准教授が講演

幼稚園や保育所における幼児の発達障害支援を考えるフォーラムが3日、佐賀市であった。障害の有無に関わらず分け隔てなく育てる「インクルーシブ（受容）保育」を提唱する昭和女子大初等教育学科の石井正子准教授が講演。支援機関の指導や助言に依存せず、保育者自らが子どもを引きつける技術を持ち、主体的に支援策を模索するよう呼び掛けた。

石井准教授は「障害が重いと保育は大変で、保育者の増員や支援機関の指導が不可欠と思いがちだが、実は違う」と説明。保育者が増えることにより、園児同士が関わりの中で違いに気づき、学ぶ機会が失われる弊害などを挙げた。

療育センターなど支援機関の助言については、「客観的な視点でヒントを得ることもあるが、継続的に必要とは限らない」とも。子どもの名前を歌で呼び、体を揺らしながら手を挙げたり、返事ができるように工夫している保育例を紹介し、「子どもを引き付ける引き出しが保育者にどれだけあるかが重要」と述べた。

県内の大学・短大などで行く大学コンソーシアム佐賀が主催し、約140人が参加した。フォーラムでは、これまでに県内5大学・短大の共通課程を修了した学生355人が「子ども発達支援士」の資格を取得し、うち291人が幼稚園などに就職したことも報告された。

## 常総水害10日で1年 障害抱えた夫婦「避難が不安」 共同通信 2016年9月9日

昨年9月の関東・東北豪雨で鬼怒川の堤防が決壊し、茨城県常総市が広範囲に浸水してから10日で1年。同市の斉藤純子さん（62）と哲雄さん（67）は水害で被災した自宅の再建を諦め、障害者グループホームで暮らし始めた。不便な避難生活を経て、新たな場所での再出発を決意する一方で「今度災害が起きたら、避難はどうすれば」との不安も抱える。

純子さんは目が不自由で、哲雄さんには文字が認識できない「失認」という障害がある。昨年9月10日、2人は鬼怒川の堤防決壊地点から1キロ近く離れた自宅でヘリコプターに救助された後、市内にある体育館に数週間身を寄せた。

「人様に迷惑を掛けられない」との思いもあり、哲雄さんが字を読んでももらいたくても周囲に頼みづらく、情報を得るのに苦労した。純子さんが館内の女性用トイレに行く時には誤解を与えないよう「介護中」と書かれた札を哲雄さんが首からぶら下げ、連れ添った。

その後、知人の紹介で市内の障害者支援施設へ。純子さんにとって慣れない場所での階段の上り下りは困難で、風呂やトイレに近い1階の会議室で生活するように。11月に現在のグループホームに入るまで、1カ月ほど過ごした。

築60年を超える2階建ての自宅は、東日本大震災で壁にひびが入り、床が傾いた。さらに昨年の水害で、床上60センチほど浸水。再び住める状態に戻すには1千万円以上かかるため再建は諦めた。

哲雄さんは「今は近くにどういう人が住んでいるか分からない。災害が起きればどうすればいいのか」と不安そうな表情を浮かべる。純子さんは「夫婦でいたからこそここまでこられた」と振り返り、つぶやいた。「つらくなるもんね。水害のことは思い出したくない」

## 福祉避難所、震災前の5倍 被災3県で指定進む 共同通信 2016年9月10日

東日本大震災で甚大な被害が出た岩手、宮城、福島3県で、災害時に高齢者や障害者ら

を受け入れる福祉避難所の指定が震災前と比べ約5倍に増えたことが9日、分かった。災害弱者への対応が不十分だった反省から自治体が積極的に指定を進めたのが理由。一方、多くは民間施設で「人手不足の中で十分に対応できるのか」と不安の声が出ている。

3県に震災前と最新の2015年度の指定数を尋ねた。岩手県は29カ所から269カ所へと指定が進み、宮城県は177カ所だったのが582カ所になった。震災前に37カ所だった福島県は359カ所に増え、3県を合わせると4.98倍になる。

指定が広がった背景について、福島県は「震災を機に各市町村が災害弱者対策の重要性を実感した」、岩手県は「震災時は、後からの指定も認められたが、避難を円滑に進めるためには事前指定が大切と痛感した」とした。

13年の災害対策基本法改正も指定拡大につながったとみられる。従来は各自治体が地域防災計画の中で独自に避難所を指定していたが、法改正で市町村に指定が義務付けられた。

一方、福祉避難所の大半は民間の高齢者施設や障害者施設が指定されており、宮城県石巻市の障害者施設の男性職員は「ただでさえ人手不足の業界で、次の災害に対応できるか不安だ」と語る。

自身も身体障害があり、震災時に福祉避難所の運営に携わった東北福祉大の阿部一彦教授(64)は「災害弱者への対応が施設側に丸投げになっているのが現状だ。被災地以外から人手を確保して融通する一元的な窓口を、国や都道府県が整備すべきだ」と話している。

## 視覚障害者と歩く<上>「ラッシュの時、点字ブロックは頼れない」 ホームドアあれば減る不安

西日本新聞 2016年09月08日

東京の地下鉄のホームで8月中旬、視覚障害がある男性が線路に転落して亡くなる事故があった。九州の駅に同様の危険はないのか。どうすれば事故は防げるのか。約30年、電車などで通勤している福岡点字図書館(福岡県春日市)館長の吉松政春さん(62)＝北九州市八幡西区＝と駅を歩いた。

「通勤や通学のラッシュの時は、点字ブロックを頼れない」。1日約24万人が乗り降りするJR博多駅(福岡市)。鹿児島線で通勤する吉松さんは乗り換えなどで利用するが、危険を感じることは多いと話す。

吉松さんは点字ブロックに沿って歩き、白杖(はくじょう)を肩幅に振って前方を確認しながら進む。ところがラッシュ時は電車を待つ客が点字ブロック周辺をふさいでしまい、歩けない。やむを得ず白杖で慎重に確かめながら、線路に近いホームの一番端を歩くこともあった。点字ブロックの上に柱が立つホームもある。よけようとする端を歩かざるを得ない

線路への転落は1回、ホームと車両の隙間に挟まったことは数回ある。視覚障害がある知人も大半が転落を経験している。最も多いのは、どのホームに電車が着いたか分からず、自分が乗る電車が来たと勘違いし、電車がない所に踏み出して落ちるケース。確かに、博多駅では絶えず列車の発着音やアナウンスが響き、案内を聞き取れない。乗降ドアと車両連結部を間違えて踏み出してしまい、隙間に転落する例も目立つという。

「九州では一般的」(吉松さん)というJRの別の駅に移動した。点字ブロックの上に柱が立っている。JR九州は「国のガイドラインに沿っている」と言うが、柱などに頻繁にぶつかるという吉松さんは「こうした危険をよけていると方向感覚を失いがち」と訴える。

ちなみに、ホームドア設置率100%の福岡市営地下鉄では「『乗り遅れないか』『出口はどこが近いか』など、本来気になることだけを考えればいい。転落の危険がないだけで、どれほどストレスが減るか、痛感する」と吉松さん。



東京の事故を「いつ自分が遭ってもおかしくない。周囲に人がいたはずなのに防げなかったことが悲しい」と受け止める。「声を掛けられて気分を害する視覚障害者はいない。一人一人ができることをほんのちょっと手伝ってくれるだけで、安全は何倍にもなる」。ホームドアの設置が進まない現状で、周囲の声掛けが最も頼りになる。

### ●設置わずか7% 高コスト、構造にも問題

国土交通省によると、乗客がホームから転落した事故は2009年度の2442件から、14年度には3673件と1.5倍に増加。このうち、視覚障害者の転落も38件から80件に倍増している。

九州では15年度、JR九州で39件（うち視覚障害者0件）、西日本鉄道で28件（同3件）が発生。酒に酔っての転落事故が多い。

国は11年、バリアフリー法に基づき、1日3000人以上が利用する全ての駅で、ホームと線路を仕切って転落を防ぐホームドアや、ホームの内側と線路側が分かる点字ブロックの整備、段差の解消などを20年度までに実施することを掲げた。

だが今年3月末現在、ホームドアがあるのは全国約9500の駅のうち約7%の665駅にとどまる。九州では福岡市営地下鉄の全35駅と九州新幹線の博多駅を除く11駅のみ。JR九州では全567駅中、視覚障害者向けの安全対策が全くない駅も約5%ある。

ホームドアの整備が遅れている原因は、1駅当たり数億円から数十億円がかかるという多額のコスト。国と自治体が最大で3分の2を費用補助しているものの、容易に賄える額ではない。ホームの強度や広さといった構造上の問題、扉の位置が異なる車両への対応といった課題もある。

このため近年は、ホームドアの代わりに、支柱に張ったロープやバーを昇降させてコストを抑える新タイプの設備や、車両に応じて開閉の位置が変わるドアの開発なども進んでいる。

## 視覚障害者と歩く<下>「頼みづらい時もある 白杖シグナル知ってほしい」 人の心がバリアフリーに

西日本新聞 2016年09月09日

### 白杖を掲げてシグナルを出す池田精治さん

視覚障害がある人は、駅を使うときに限らず、日常生活でさまざまな不自由を感じている。周囲はどんな配慮ができるのだろうか。

福岡県太宰府市内のコンビニ。県盲人協会長で全盲の池田精治さん（67）＝久留米市＝は、ジュースを買おうとICカードを取り出した。手元の白杖（はくじょう）で視覚障害者と分かるはずだが、レジ係は「カードを『こちら』に当ててください」と言う。目が見えないと伝え、カードを渡して読み取り機に当ててもらった。

店を出て、一口飲んだ。「今日はお茶だったか」。なじみの店で冷蔵庫の場所は知っているが、ずらりと並んだペットボトルの中身までは分からない。店員に聞こうとレジ近くで待っていても客が途切れず、いつも自分で選ぶ。「白杖は目の見えない印。何を探しているか一声掛けてくれるとありがたい」

コンビニ以外でも、店員の少ない店は増えている。吉松政春さん（62）＝北九州市＝は「セルフサービスの店では自分で空席を探さないといけない。案内してもらいたいが、忙しい時間帯は頼みづらい」と話す。

タッチパネル端末で注文するタイプの居酒屋や回転ずし店となるとお手上げだ。客が自分で注文するのが前提なので、店員にメニューを読み上げてもらうのは心苦しく「利用できない」。駅のコインロッカーも鍵を使わないタッチパネル式の新型が登場し、1人では使



えない所が増えてきた。

一方、同じタッチパネルでも、金融機関の現金自動預払機（ＡＴＭ）は付属の受話器で音声ガイドするなど、視覚障害者への対応が進んでいる。金融庁による３月の全国調査ではＡＴＭの８２％が対応機器だった。

スマートフォンはさらに進化し、カメラに写った物の名前や、地図上でタッチした施設名や地名を読み上げるアプリがある。インターネットで情報を集め、衛星利用測位システム（ＧＰＳ）を使って出掛ける人もいるという。

ただ「物」のバリアフリー化が進んでも、最後はやはり「人」が頼り。福岡県盲人協会は、街角で困ったとき、助けを待つだけでなく、自ら意思表示する「白杖シグナル」を全国に広めている。白杖を真っすぐ頭上約５０センチに掲げるこのＳＯＳの合図は、東日本大震災などを機に認知されるようになってきた。池田さんは「ここ数年で助けてくれる人が増えた」と変化を実感している。

### ●街で見かけた時は 肘や肩を貸して誘導 盲導犬は触れないで

視覚障害者に声を掛けるときは、いくつか気をつけたいことがある。日本盲人会連合（東京）などにポイントを聞いた。

街で困っていきそうな障害者を見かけたら、いきなり腕をつかんだりせず、まずは声が届きやすい正面から話し掛ける。誘導する時は肘や肩を貸し、半歩先を歩く。白杖を持つとする人や、体を押ししたり引っ張ったりする人がいるが、障害者にとっては怖いことだ。

大きな音も、何が起きているのか見えず怖いので「工事中です」などと周囲の状況を伝えながら誘導すると安心する。段差や障害物は手前で一度止まり、上るか下るかなどを伝えよう。

盲導犬が、使用者を誘導するハーネス（胴輪）を着けているときは仕事中。集中力を欠くと使用者を危険にさらすこともあるため、盲導犬に触れたり、食べ物を与えたりしない。飼い犬を近づける、カメラのストロボを向けるといった行為も控えよう。盲導犬は信号は判別できないので「青になりましたよ」などと声を掛けてあげると助かるという。

視覚障害者は、全盲であっても明暗の区別がつく人とつかない人、視力が弱い人、視野が狭い人など、状態はさまざま。どんな助けが必要か具体的に聞き、相手の立場に立って支援しよう。

## 潜在保育士確保へ 子どもの保育所入所優遇

大阪日日新聞 2016年9月10日

大阪市は9日、待機児童解消の一環として、保育士の子どもの希望の保育所へ入所できるよう優先的に取りはからう方針を発表した。優遇することで、潜在保育士を掘り起こす。来年4月の入所申請分から導入する。

市によると、保育所への入所要件には父母の就労日数や時間などで加算される点数を満たすことが必要だが、保育士についてはその点数を除外する。国の指針に基づくもので、政令市では既に千葉市や札幌市などで先例がある。市は 保育士を「数十人」確保する見通し。

また、今年12月から未就学児がいる保育士に対して、月額2万7千円を上限に保育料の半額を1年間無利子で貸し付けることも発表。市内の保育施設に2年以上勤務する場合は返還を求めない。週5日以上勤務や派遣職員でないことなどが条件。

優遇に市民の反発も予想されるが、吉村洋文市長は同日の定例会見で「特別扱いをしてでも解消しないとイケない」と強調した。



月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も  
大阪市天王寺区生玉前町5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行